

リレーメッセージ



「聞いて!聞いて!私の声」……「おがわ町九条の会」では町のみなさんのいろいろな声を集めてゆきます。「九条へのおもい」「平和への願い」「現状への不平・不満」などなど、みんなに聞いてもらいたいことを、どうか事務局までお届けください(匿名でも結構です)。今回、今回大塚の豊島久子さんが洋裁教室のようをレポートしてくださいました。ありがとうございます。

洋裁教室から

大塚 豊嶋久子

私はくらぶルームはなみずき(生活クラブ)の洋裁教室に通っています。

1時間 30 分かけて K 市から来られる先生は高知市生まれ。長年、洋装店をやっていた方で私たちにすぐに役に立つプロの技を教えてください。ミシンをかけたり、角尺やカーブ尺を使って、パターンをおこしたりしていると、通りがかりの人達が興味深そうに覗いていきます。

私たち生徒がやっている事は和服や昔の洋服のリフォームだったり、お気に入りの布地で服を造ったり色々です。先日 N さんが持ってきたワンピースは敗戦後間もなくお父さんから許嫁のお母さんへプレゼントされた布地で作られたものでした。小花模様のデザイン(絹)で当時大変貴重なものだったでしょう。N さんはそれを娘さんのブラウスに作り替えました。真珠のようなボタンが付き、品の良い仕立て上がりでした。

一着の服を作るのに、体型を見、身体の特徴を知り、動きやすさや美しさを考えパターンを作るのです。しかし納得する服はなかなか出来ません。作業は複雑ですが、なぜかこの作業にはまっています。

安いからといってヒョイと買い、飽きればポイと捨てていたような暮らしをし、速く速くをモーターに突っ走ってきました。たかが服、でも身体にあった服は気持ちよく身体も心も元気になってくれます。九条の会の活動に通じるものを感じます。

一見、平和そうに見える洋裁教室ですが、生徒達は病気の夫の介護、自分が抱える病気、子供、孫たちの事、老後の不安など、それぞれの問題を抱えています。だからこそ、平和への関心も高く、ここでの時間を大切にしたいという気持ちでいっぱいです。

どうぞ時にはこの教室をのぞいてみてください。

※「くらぶルームはなみずき」は、そよ風かんざわ店隣、埼玉縣信用金庫の向かい側です(編集部)

★「Cafe 9 joe おがわ町」OPENしました!!

毎月第2土曜日 11:00am(~4:00pm) (生活クラブ)はなみずきルームをお借りします。コーヒー、麦茶、お菓子をご用意してお待ちしています。お気軽にお立ち寄りください。



おがわ町九条の会総会

日時 9月12日 午後1時30分

会場 図書館 視聴覚室

記念講演 杉田明宏氏

「平和学から見る日本国憲法」(講演は2時45分から)

杉田明宏さんは大東文化大学教育学科の先生です。ご自分の講義について「私およびゼミの研究においては、過去から現在の戦争と平和の問題を中心にしつつ、貧困や人権抑圧、環境破壊、子どもの発達障害等、幅広いすそ野から平和の問題に迫ろうとしています。平和学(平和研究)と心理学・教育学・歴史学等の研究成果を総合し、日本・世界の現実を踏まえながら、平和創造の道筋を探っていこうと思っています。」と述べています。教育学会、心理学会、平和学会と多岐にわたって活躍をされています。今回、標記の記念講演をいただきます。ご期待ください。

◆生活に憲法を活かそう

～高齢者介護と実情～

(相談もお受けします)

日時 9月26日(土)午後1時30分~

講師 堀越清子氏(居宅介護支援事業所かたくり ケアマネージャー)

会場 小川町 図書館 会議室

◆第四回町民コンサート 10月31日午後 パトリアおがわ

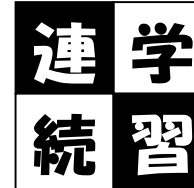
フルート 福島さやか(大塚)

チェロ 大塚幸穂(小川)

ソプラノ 大塚秀子(青山)

ピアノ 大導寺俊平(鳩山町)

〈曲目〉鳥の歌 荒城の月 小さな木の葉 十五夜お月さん アルルの女(他) 四人のアンサンブルもあります。ご期待ください。



連続学習からのご報告



「みんなで聞き、考え、話し合おう、社会福祉と生活と憲法」を合言葉に、連続学習討論会が専門家を迎えて開かれています。大変盛況のうちに二回を終えました。参加した皆さんの声を掲載します。なお、第三回は9月26日です。お誘い合わせて、お出かけ下さい。

「医療現場から」を聞いて感じた、考えた

みどりが丘 百武千恵子

国民皆保険制度がうまく立ち行かなくなったのは、この制度を始めた時の予想よりも高齢者の数が増えたことや、医術が進んで医療費も高額になったこと、などが主な原因だそうです。また患者として医師に望むもっとも素朴な願いである、「じっくり話を聞いてほしい」「病状や治療方法について丁寧に説明してほしい」ということが、満足に行われていないのは、患者との対話が医療報酬として算定されていないためと言っておられました。

必要な医療を誰でも等しく受けられることは、私たちが元気に暮らしてゆく上で欠かせないことです。現状をよく見極めて矛盾を正し、心ならずも生活弱者と呼ばれる立場になってしまった人にも、十分救済の手を差し伸べられる制度に改めてほしいものです。



第一回講師 日赤看護部長
川崎つま子さん

「医療問題」を考える

靱負 富田和朗

医療や福祉、年金、介護の問題は緊急を要する一番の生活にかかわるものである。今回九条の会が三回にわたってこの問題を取り上げたことは評価したい。

7月18日図書館で行われた、小川日赤看護部長川崎つま子さんによる「医療の現状報告」は、現場に携わる経験者から地域医療の問題を懇切丁寧に説明され多くの質問にも多岐にわたり答えてくれました。若さあふれ、魅力のある看護部部長さんに「なんで国の医療費が35兆円もの莫大な予算がかかるのか」との問いに「半分が人件費に使われる」と聞くと、医師の給与が高すぎるからかとの質問にも「医師になるのに最低6年間、数千万円の費用がかかる、また医師の働く時間(年月)はそれほど長くない」と聞くと、そういう立場にあるのかと納得する。医療が医師、看護婦の力によってなされる以上止むをえないかもしれない。

昨年アメリカ映画で医療問題を追及した、「シッコ」というのを上映する機会があったが、それは南米のキューバの医療の現状を描いていて、国家がすべての医療を国民に負担をかけずに賄っている。それを見ると医療、介護は、本来国が無料でやるべきこととだと思ふ。日本でも、格差を解消し無駄の根絶を果たしたうえで話だが、そのためにかかる公平な税の負担は、私たちが覚悟すべきだと思ふが皆さんはどうお思いですか。

第二回アンケートから

- ★これからの年金を考えると財源論が大切になってくるが、消費税方式やむなしのムードがある。① ムダをなくす…軍事費、公共事業のムダ ② 税負担の公平性…企業・富裕者負担 ③ その他…0金利制、貿易立国論の是非など考えた。
- ★全体的に簡明でわかりやすく年金問題の全体構造を話していただきました。
- ★国民年金が施行された時、その金が軍事利用などに利用されるのではないかと50年前に反対したことを思い出す。現在年金を受給される身となるとそんなことを忘れ高齢者が益々増える時代を迎え財源論に考えが向かう。医療介護も大切で本来無料で診療を受けられるようすべき。今消費税論議が財政論に上がっているが現在5%の消費税は福祉にどのくらいの割合で使われているのだろうか？高福祉、高負担の社会がやがて来ると思うがその時に公正な税負担であれば例え消費税であっても増えるのは止むをえないのではないかと？
- ★財源については漠然としているので、よくわかりませんでした。理念としてはよくわかりました。
- ★有意義な講演で種々の意見も伺えありがとうございました。おがわ町九条の会の積極的な活動に学ばなければとつくづく感じた次第です。



第二回講師 年金者組合
委員長 齊藤 健さん

9条サロン

知られるようになってきたが、1938年の死後永年忘れ去られていた川柳作家・鶴彬(つるあきら)の生涯を描いた、神山征二郎監督作品である。

映画「鶴彬——こころの軌跡」を観た。最近でこそ幾種かの本が出たり、マスコミ上でとり上げられたりして少しは

治安維持法下、特高警察の弾圧で、あらゆる社会運動・自由が圧殺されていたなかで、川柳という表現手段をつかって、権力と真つ向から(無謀ともいえるストレートさで)対決した鶴彬。私は30年ばかり前にその存在を知ってから、いくらか調べたり、知ったことを人に伝えたりしてきた。29歳の若さで獄死した鶴彬の無念をはらすためには、ひとりでも多くの人に彼の業績を知らせることが大事だ。こんど映画ができたことを私はたいへん喜んでいいる。鶴彬がいま生きていたら、九条の会の先頭に立っていたことだろう。

手と足をもいだ丸太にしてかへし

万歳とあげていった手を大陸へおいてきた

胎内の動きを知るころ骨(こつ)がつき

(R)

※映画監督(神山征二郎)岐阜県生まれ。「ハチ公物語」「ひめゆりの塔」などのメジャーヒット作品から、「草の乱」など市民参加の映画製作までヒューマンイズムあふれる作品を次々と発表。映画九条の会・代表委員。映画「鶴彬——こころの軌跡」は今秋から公開予定。(編集部)